

あとがき

凸凹がない子どもも、大人もいませんよね。
みんな凸凹を抱えながらも、いろいろ工夫して、
日々を過ごしていると思います。
大切なことは、「ありのまま」を受けとめ、
寄り添ってくれる人がいることです。
そういう人が地域に増えることを願ってこの冊子を作りました。
日々の関わりの中でお役にたてれば幸いです。
誰もが「自分は自分でいいんだ」「自分は大切にされている」と感じられる社会になることを願っています。



STAFF

企画：作業療法士 小浜ゆかり
：言語聴覚士 前田智子
構成・取材：平岡禎之・ワッシャー
デザイン：mars(まあす)
イラスト：ニヤーイ

発行

NPO 法人わくわくの会
(お問い合わせ)
相談支援事業所 さぼーとせんたーi
〒902-0063 沖縄県那覇市三原2丁目6-1 2階
電話：098-987-1167 FAX：098-987-1166
メール：wakusapo.i@gmail.com

コピーOK
非売品

この冊子は、非営利目的に限り自由に利用できます。変更、改変、加工、切除、部分使用、要約、翻訳、変形、脚色、翻案などは含まれません。そのままプリントアウト、コピー、無料配布をする場合に限られます。

この小冊子は、那覇市発達障がい者サポート事業の予算で作成しています。

シリーズ⑥ こどもまんなか社会

「発達が気になる子」を支援するみなさんへ

普通って、なあに？

子どもの育ちを支えるために大切なこと



子育てを楽しむために

はじめに

こどもまんなか社会^{*1}

こどもが心身ともに健康かつ幸せに成長できるようサポートするため、2023年に、こども家庭庁が発足されました。こども家庭庁は、こどもまんなか社会の実現を目指しています。

*1 「こどもまんなか社会」とは

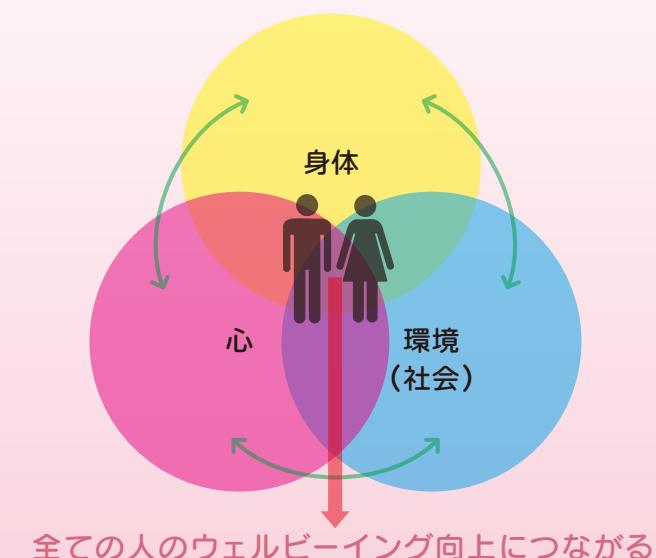
こどもや若者の権利が保障され、健やかな成長と社会全体で後押しすることで、将来に渡って、幸せに生活できる社会のことです。

はじめの100ヶ月育ちのビジョン

こども家庭庁が策定した、幼児期までの育ちに関する基本的なビジョンです。「はじめの100ヶ月」(妊娠期から7歳までがだいたい100ヶ月)が長い人生において、非常に重要な時期であることから、一人ひとりが健やかに育つことができるよう、みんなに大切にしてほしい考え方をまとめたものです。「身体」や「心」「周りの環境や社会」が良い状態、幸せな状態(ウェルビーイング)^{*2}になるように保障することが大切です。

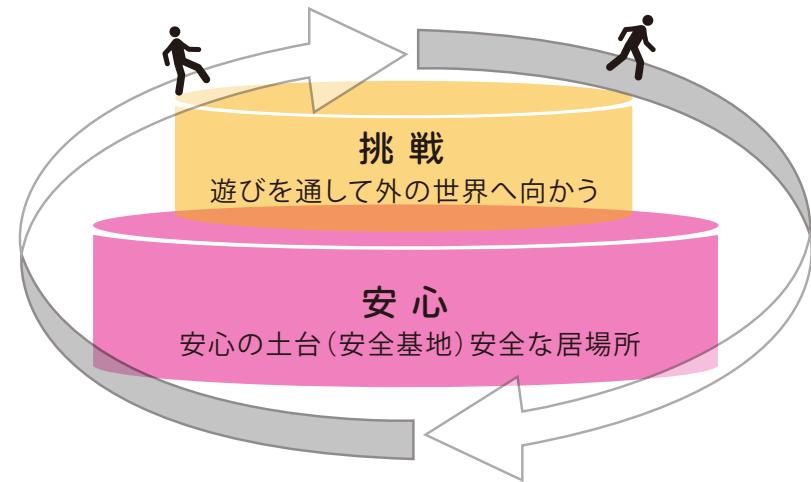
*2 「ウェルビーイング」とは

身体面・精神面・社会面のすべてにおいて良好な状態、幸せな状態にあることです。



子どもの育ちには愛着の形成と豊かな「遊びと体験」が大切

発達の鍵となる安心と挑戦の循環



この図のような循環が、子どもの自己肯定感(自分が自分であって大丈夫と思えること)をふくらませます。

自己肯定感は『人生の浮き袋』(高垣忠一郎氏)

親や身近な大人から「あなたはあなたのままでいいよ」と丸ごと受け止められ、愛されたこどもは安心感があるため困難に直面してもびくともしない。厳しい社会で生き、沈んでも浮き上がれるように、大人は愛の息吹で子どもの自己肯定感をふくらませてほしい。

「アタッチメント(愛着)<安心>

こどもが怖がったり不安な時などに身近なおとなが寄り添うことで、安心感を与えることができます。この経験の繰り返しにより、安心の土台(安全基地)を築くことができます。

豊かな「遊びと体験」<挑戦>

多様なこどもやおとな、モノ・自然・絵本・場所など、身近なものとの出会い・関わりにより、興味・関心に合わせた豊かな「遊びと体験」を保障することで、挑戦したい気持ちを育むことができます。

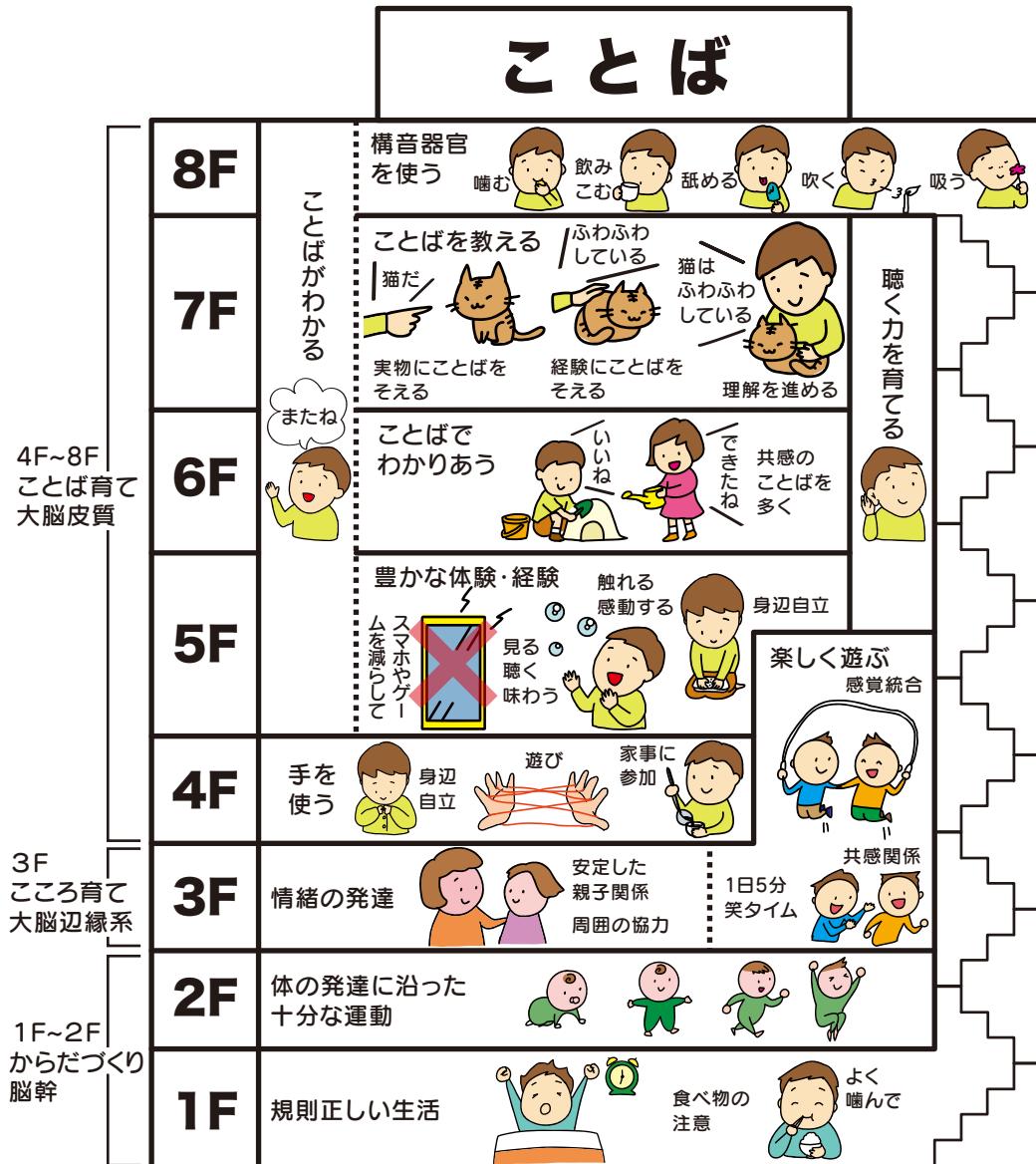
日常のていねいなかかわりが 子どもの発達を促す

子どもの発達

右の絵は、脳の働きと、ことばの力を結びつけて構成した「ことばのビル」です。脳は①脳幹(からだの脳) → ②大脳辺縁系(こころの脳) → ③大脳皮質(ことばの脳・考える脳)と3つの部分が積み上げられる構造です。大人は「ことばを教えよう」「ことばを言わせよう」と思いがちですが、この図のように日常のていねいな関わりが大切です。例えば規則正しい生活や、子と一緒に遊ぶことは、子どもの発達にとって大切な土台になります。



日常のいろいろな場面で子どもの気持ちやその行動にことばを添えてあげることが大切になります。



親子のやりとり遊びが コミュニケーションのはじまり

赤ちゃんの動きや声をまねすると、じっとこちらを見ることがありますね。それが他者への関心へつながり、コミュニケーションのはじまりになります。そして、大人から語りかけたり、あやしたりすると、じっと見返して笑顔を向け、身体全体で喜びを表現し、まるで返事をしているような声を出してくれます。こうした楽しいやりとりがコミュニケーションの力を育てます。



豊かな遊びの体験が発達を促す

豊かな遊びの体験を通して、見ること、聞くこと、触れること、味わうこと、手を使うこと、身体全体を使うこと、考えること、人とのやりとりなどなど…。たくさんのことと体験することで発達が促されています。

